

平成29年度 宇治田原町教育・保育事業進捗状況の点検・評価シート

No. 1

事業名	1号認定（3歳以上 保育の必要なし）
担当課	健康児童課
事業内容	3歳以上の保育の必要性のない児童を認定し、幼稚園・認定こども園において、就学前の幼児教育を実施。
確保方策	町内私立幼稚園（1か所）定員150人、町外私立幼稚園、町外認定こども園

進捗状況（計画・実績値）及び評価

〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の利用実人数

単位：人			H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)		81	81	79	77	76
	確保の内容 (B)		90	90	90	90	90
実績値	申請児童者数 (実際のニーズ)	新制度に移 行した園	町内	0	0	0	
			町外	1	1	0	
		新制度に移 行していない園	町内	36	25	18	
			町外	60	61	57	
	計 (C)		97	87	76		
	実際の通園児童数 (D)		97	87	76		
	過不足(D)-(C)		0	0	0		
利用率 (A)			119.8%	107.4%	96.2%		
利用率 (B)			107.8%	96.7%	84.4%		
評価	評価指標 1		○	○	○		
	評価指標 2		×	△	○		

全ての申請児童が通園できていることから、保護者のニーズは満たしている。
 確保の内容は、町内・町外の私立幼稚園等の平成25年度の利用実績
 ※利用率(A):量の見込みと実際の通園児童数との比較 ((D) ÷ (A) × 100%)
 ※利用率(B):確保の内容と実際の通園児童数との比較 ((D) ÷ (B) × 100%)

評価指標 1 : 計画通りに進められているか。

評価指標 2 : 保護者のニーズを満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

自己評価

○町内・町外の私立幼稚園において利用希望児童は全て受け入れられ、教育ニーズは確保された。
 ○町内の私立幼稚園で教育ニーズは全て確保できるものの、今後も近隣の私立幼稚園の利用希望が多いと見込まれる。保護者が多様な施設から選択する際には、適切な支援ができるよう幅広い情報収集・提供に努め、町内幼稚園については、連携した取り組みを行う等、有効な活用を促進していく。

評価（意見）	今後の方向性
利用者ニーズを把握するとともに、町内外の園についての確かな情報提供を行う必要がある。	幼児教育を希望する保護者の、教育施設に求めるニーズの把握に努める。

平成29年度 宇治田原町教育・保育事業進捗状況の点検・評価シート

No. 2

事業名	2号認定（3歳以上保育の必要性あり）、3号認定（3歳未満保育の必要性あり）
担当課	健康児童課
事業内容	保育の必要性のある児童を認定し、保育を実施する。
確保方策	町立保育所（1か所）定員200人

進捗状況（計画・実績値）及び評価

2号認定・3号認定（保育希望）

〈計画・実績値〉 4月1日時点

単位：人		H27		H28		H29		H30		H31	
		2号	3号	2号	3号	2号	3号	2号	3号	2号	3号
計画値	量の見込み（A）	106	80	105	80	102	74	124	73	113	72
	確保の内容（B）	200		200		200		200		200	
実績値	申請児童数（C）	129	68	128	66	127	65				
	認定児童数（D）	129	68	128	66	127	65				
	過不足（D）－（C）	0	0	0	0	0	0				
利用率（A）		105.9%		104.9%		109.1%					
利用率（B）		98.5%		97.0%		96.0%					
評価	評価指標1	○		○		○					
	評価指標2	△		△		△					

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較 ((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較 ((D) ÷ (B) × 100%)

評価指標1：計画通りに進められているか。

評価指標2：保護者のニーズを満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに上回っている。

自己評価

- 申請数が量の見込みに対して、2号認定は多く、3号認定は少なかったが、全体として確保の内容となる想定員数を下回り、申請数を全て受け入れることができた。
- 出生数は減少しているが、年度途中の育児休業からの復帰など、0,1歳児での途中入所の希望は多くある。途中入所者数は予測が立てにくい、部屋の割り振り等について毎年度の細やかな工夫による対応を行っている。
- 乳児クラスは保護者の利用ニーズに対応できているが、職員の配置基準や面積基準が幼児クラスより厳しいため、更に余裕のある保育士の確保が課題である。

評価（意見）	今後の方向性
途中入所等に対応できるよう、余裕をもって人員を確保するなど、今後も工夫し対応していく必要がある。	年度途中での乳児クラス利用ニーズに対応できるよう、更なる保育士の確保に努め、今後も安全安心な保育を実施する。

